

いつでもどこでも
日刊産業新聞DIGITAL
PC・スマートフォンで最新情報をご覗め
ます。2週間の無料試読から
<https://www.japanmetal.com/pre-order>



発行所 産業新聞社
東京本社 東京都中央区新川1-16-14
TEL 03(5566)8770㈹ FAX 03(5566)8185
大阪本社 大阪市西区阿波座1-3-15
TEL 06(7733)7001㈹ FAX 06(7733)7070
アジア総局 上海市婁山閣路85号 東方国際大厦C座1604室
上海支局 TEL 86-21-6278-7750 FAX 86-21-6278-7751

日刊

産業新聞

Japan Metal Bulletin

2022年(令和4年)

4月4日(月)

第20412号
Since 1936

成長戦略の軸となる扶和メタル東京ベイ。大型の鉄スクラップ加工処理設備も導入する。大

19年度の前中計

では、3カ年の鉄スクラ

ップ取扱量が累計3

00万トン強と「非常に

高い目標」(勝山社長)

をアリアした。輸出環

境の改善に加えて19年

10月に開設した西東京

支店(埼玉県入間市)、

同12月の宇都宮支店

(栃木県芳賀郡)と関

東の新拠点が早期に立

ボン時代に向かって、
世界的な電炉シフト
への取り組みが加速す
る。中「50年のゼロカーボン
時代」に向けた鉄ス

クラッパーを中心とした
世界の電炉シフト

の取り組みが強化す
る。新中計では国内高炉

メーカーをはじめとす
る世界の電炉シフト

の取り組みが強化す
る。新中計では国内高炉

——まずは前中計最終年度となる21年12月期を振り返って。

「前中計初年度に約90万トンだった鉄スクラップの取扱量は20年が101万トン、前年は20年比22%増の123万トンと過去最高だつた。輸出環境改善に加えて、19年に開設した

西東京支店と宇都宮支店
が軌道に乗り、関東地区
の数量拡大につながつ
た。特に宇都宮支店は設
備やレイアウトを改善す
ればまだまだ伸びしろを
感じさせる拠点で、今期
をめどに加工設備の入れ
替えなどに着手したい。
関西地区でも加工設備を



勝山正明社長

「50年のゼ
ロカーボンに
向け、世界的
に鉄スクラップの
需要が拡大
していること
に対応するた
めだ。3月中
旬から営業を
開始し、炉前
サインに加工
したスクラップ
大型のスクラップ加工設
る。荷役能力が高ければ
高いほど鉄スクラップの
売り手や買い手の相場リ
スクを低減し、激しい相
場変動にも対応できる。
船主が重視する回転率の
向上につながり、海上運
賃（フレート）に対する
強い交渉力にもなるだろ
う」

新 十 一 早 期 单 发 力 化

新時代 新技術 新戰略 新開拓

找和分

え、海上出荷拠点として活用する南港支店など各支店で着実に数量を伸ばしている」

「前中計期間では3年間累計の鉄スクラップ取扱量が304万トンだった。非常に高い目標だと考えていたが、社員の頑張りもあってクリアできただ。新中計では3年間累計で440万トン、最終年度の24年12月期には年間160万—170万トンを目指す。ロシアのウクライナ

不透明感は強いが、資源の価値が新ステージに上がったことは間違いないとみてている。約20億円投じて開設した『扶和メタル東京ベイ』の早期の戦力化が中計の目標達成の鍵となるだろう

――扶和メタル最大の事業拠点となる「東京ベイ」開設の狙いは。

る。自社岸壁は約190メートルで3万トンクラスの船舶が着岸可能で、輸出だけではなく、当然、輸入も視野に入れている。荷役設備は国内最大クラスのホイールローダや、150トンの大型クレーンを導入する。2基で日当たり5000トンの船積みが可能になると期待している。

最新設備活用、量と質追求

たい。また、新設備では最大で長さ10㍍まで加工母材を投入できる。約2万平方㍍広大な敷地で一般的なものよりも大きなスクラップ母材を受け入れること

日刊商業新聞224

備も導入する。「約6億円かけ、2000トン圧の大建物の解体現場や、ガス切り作業が必要なプラント解体などの作業負担軽減にも